

## 県内企業の事業承継をサポートします

(公財)かがわ産業支援財団

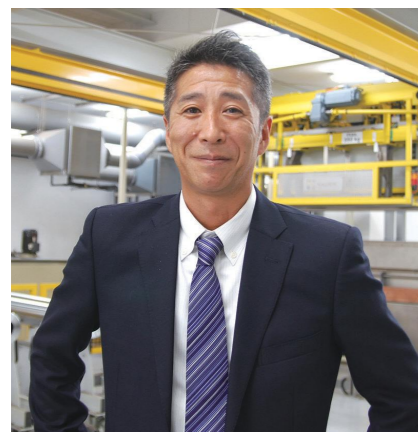
(公財)かがわ産業支援財団は、中小企業庁から委託を受け、中小企業の円滑な事業承継を支援する「プッシュ型事業承継支援高度化事業」を行っています。その一環として、今年6月に「香川県事業承継支援窓口」を設置しました。本窓口では、実績豊富な事業承継コーディネーターが秘密厳守で無料相談を受け付けています。

地域の支援機関(商工会、商工会議所、金融機関など)や、税務、法務、経営の専門家と連携し、皆さまの事業承継を全力でバックアップします。ぜひご利用ください。

お気軽にご相談ください。



香川県事業承継支援窓口 ☎087-802-7070  
高松市林町2217-15 香川産業頭脳化センタービル1階  
<https://www.kagawa-isf.jp/jigyoushoukei/>



鍋坂信也社長

「創業者である父は、八百屋の次男坊でした」と、代表取締役社長の鍋坂信也さん。高度成長期の1960年代、包装業界ではパッケージのニ-

### 機械化で確立した独自の地位

リアルタイムで情報を共有することで短納期を実現しています。シリンドラーにメッキ加工と彫刻・エッチングを施す作業は、ほぼ自動。並行して、オペレーターが客先からのデザイン案をもとに印刷用のレイアウト配置を行います。印刷の発色は印刷会社によって微妙な差が出がちですが、同社はインクの配合を全て数値化し、常に安定した発色ができるように調整。製版のノウハウとともにこうしたデータも全て公開するオープンな姿勢で、同業他社と差別化を図っています。

ズが高まり、グラビア印刷の需要は右肩上がり。当時のグラビア印刷は主に大都市圏を中心とする分業制で、業界で修業を積んだ職人肌の企業がけん引していたそうですが、香川で拠点を立ち上げた創業社長は、製版業の旧態にとらわれず工程の機械化にいち早く取り組みました。「自社一貫体制を確立したのは大きな強みだと思えます。かなり早くから関東圏の仕事も請け負ってききました。現在、同業で全国展開しているのは当社を含めて3社しかないんですよ」。

機械化、自動化、IT化の動きは鍋坂さんが入社した1992年ごろからさらに大きくなり、現在も最新設備導入に余念がありません。製版の出来栄をデザイン段階から手軽に確認できるアプリの開発も進行中。「トップシェアの製版の効率を上げつつ、フレキシブル、デジタル印刷、パッケージングサービスなどのサブ事業を充実させることで、どんなニーズにも対応できるワンストップサービスを確立していきます」と鍋坂さん。トップの座に満足せず、まだまだ多くの可能性を見据えています。

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 産学官連携推進課  
☎087-840-0338

## 挑戦する かがわの 9 ものづくり企業

いち早い機械化・IT化で独自の自社一貫体制を確立し、大都市圏の同業他社とは大きく差をつける柔軟な対応力を実現。高品質・高効率なもののづくりで国内トップクラスのシェアを誇る香川の企業を紹介します。

### ナベプロセス株式会社

住所 高松市木太町2477-1  
創業 1964年  
☎087-833-7171  
<http://www.nabeprocess.co.jp/>

## 完全自動化で目指す 究極のワンストップ

### グラビア印刷の エキスパート

私たちが日常で目にする食品や日用品のフィルムパッケージは、版に施すくぼみの大きさと深さで色の濃さが変えられ大量製造できる、グラビア印刷が主流です。印刷会社の仕事はフィルム・インク・版をそろえ、印刷・加工し、製袋してメーカーに納めるまで。中でも製版はパッケージの出来栄を左右する重要な工程で、豊かな色彩と精度の高い表現が求められます。「まだ世に出ていない新製品や、自分が使っている商品の

パッケージを手掛けるのは面白いですよ。ものづくりの楽しさを味わえるんです」と、営業部の青木亮祐さん。

グラビア印刷用の版は、シリンドラーと呼ばれる鉄製ロールをメッキし、デザインを彫り込んで作ります。ナベプロセスはこのグラビア印刷用製版を主事業とし、一日の生産本数600本、年間約15万本、業界全体シェアの5%を担う、国内トップクラスの企業。本社を含めた国内4カ所の工場をネットワークでつなぎ、



青木亮祐さん

